

南京国際平和通信

第 69 号

史実で南京との「記憶の橋」を架ける

8月15日、「史実に基づいて歴史を語る」南京大虐殺歴史研究シリーズ図書推薦イベントが当館で行われた。当時南京安全区国際委員会委員長であったジョン・ラーベ氏の孫であるトーマス・ラーベ氏や、抗日戦争を支援した国際友人ジョージ・ホグの甥マーク・トーマス氏、『中国の赤い星』の作者エドガー・スノーの甥エリック・フォスター氏など50名以上のゲストがイベントに参加した。



イベントのポスターと記念館を見学したゲストたち
南京大虐殺をテーマにする外国語訳書籍の小さな展示
会では、『日本侵華南京大虐殺研究誌』の英・仏・日本語
版、『南京大虐殺史』の英・ヘブライ・ポーランド・韓国・

スペイン語版、『ラーベ日記』『ラーベと中国』『南京大虐殺全記録』などの著作が並べられていた。



書籍イベントの展示台

四回目の南京大虐殺歴史記憶継承者就任式が行った

8月15日、当館で四回目の南京大虐殺歴史記憶継承者就任式が行われた。今回は南京安全区で中国人を救助した国際友人の子孫、助け合った中国人同胞の子孫、そして証拠を守った勇者の子孫も含まれている。当時南京安全区国際委員会委員長であったジョン・ラーベ氏の孫トーマス・ラーベ氏、鼓楼医院で難民を救助したリチャード・ブレイディ医師の曾孫女メーガン・ブレイディ氏、南京安全区で仕事していた中国人スタッフの許伝音の曾孫女張慶氏、「京字第一号証拠」アルバム保存者である呉旋氏の娘呉建琦氏、そして南京大虐殺生存者の子孫である蔣薇氏、胡静雅氏、合わせて6名が南京大虐殺歴史記憶継承者に就任した。現在、記憶継承者の総人数は38人に達している。



(左から) トーマス・ラーベ、メーガン・ブレイディ、
張慶、蔣薇、胡静雅

南京大虐殺歴史記憶継承者が日本で初講演

7月26日、南京大虐殺生存者夏淑琴氏の孫娘、歴史記憶継承者である夏媛さんが、日本立命館大学の講壇で祖母の写真を捧げながら、人々の心を揺さぶる講演を行った。今回は南京大虐殺歴史記憶継承者が認定されてから初めて日本で祖父母の世代が経験した南京大虐殺の惨劇を語るようになった。

30分間の講演で、夏媛さんは祖母夏淑琴が8歳の時に遭遇した悲劇について語った。1937年12月13日、寒い冬の早朝に日本軍が南京を占領し、城南新路口5号に住んでいた夏家9人のうち、7人を失った瞬間について語るとき、彼女の声はわずかに震えた。「祖母の母は輪姦された後、銃剣で殺され、下半身には瓶が押し込められた。二人の姉

は輪姦された後、刺殺された。父は跪いて懇願したが、銃殺された…」ここまで話すと、夏媛の涙が頬を伝って落ちた。

かつて北京で15年間暮らした木村さんは講演を聞いた後、怒りと悲しみを感じたと記者に語り、日本軍がなぜそのような獣のような行為を行ったのかを考える同時に、一部の日本人が歴史に対する無責任の態度に心を痛めていると述べた。

1994年、夏淑琴氏は当館設立してから初めての訪日生存者として、日本の東京、大阪、広島各地で証言していた。



講演中の夏媛さん

「不屈の魂」水墨画展が記念館で開催

近日、「不屈の魂一丁品シリーズ水墨画『南京大虐殺犠牲者の壁』美術特別展」が記念館で開催した。今回展示される作品は、日本軍に破壊された南京の城壁をイメージとして、「戦禍」、「陷落」、「劫難」、「呼喚」など16

の部分で構成され、338 枚の人物画を通して南京大虐殺を再現し、犠牲者の苦難と不屈を表現している。



「不屈の魂」水墨画展

彼女たちの痛みは忘れ去られない

8月14日は「日本軍『慰安婦』メモリアル・デー」であった。当日午前、記念館分館・南京利済巷慰安所旧跡陳列館は「涙を忘れず、未来を祈る」イベントを行った。

南京の若い写真家である李丹丹さんは、自身が作った作品を当館に寄贈した。この作品は2014年に創作され、版画、写真、絵画を組み合わせる方法で、南京利済巷慰安所旧跡が修復前の様子を記録している。



作品の一部

また、陳列館は近年の調査で確認された一部の日本軍「慰安婦」制度被害者の証言と写真を展示した。ある日本の見学者が「申し訳ないと思います。私は教師なので、子どもたちや大人たちに教えてあげたい、絶対に忘れません。前事不忘、後事之師（前の事を忘れず、後の事の師とする）。」

中日両国の青少年が共に舞台上で平和の楽章を奏でる

7月30日、国境を越えた平和の楽章が記念館で響き渡った。日本愛知県「令和遣中使」青少年友好訪中団第26回目の訪中、南京紫金草児童合唱団と初めての共同公演を行った。

1995年から、日本上山奨学財団は優秀な高校生を選抜し、毎年中国に訪問団を派遣した。今回は12名の高校生が含まれており、訪問団にとって記念館見学は重要な日程である。



高校二年生の馬島美輝さんは次のように語った。「日本の教科書では南京大虐殺を詳しく記載していない。例えば、

南京大虐殺生存者の証言や 30 万人の犠牲者などは、私が初めて詳しく知った。」

公演会では、中日両国の青少年は共に二胡を演奏し、音楽で歴史への思考と期待を伝えた。



南京紫金草兒童合唱団合唱『平和が紫金草を吹き抜ける』



日本の高校生が二胡演奏『世界が愛に満ちますように』

思い出の写真を募集！記念館 40 周年の成長を見守る

今年は当館開館 40 周年にあたり、皆様の思い出のある写真を募集しております。「懐かしい」と思われる写真がございましたら送っていただきたいと思います。一枚一枚の写真を通して、記念館 40 年にわたる成長の歴史を再現したいです。